

慶應義塾大学教職課程センター公開研究会

日本の中高生の学力の現状

—PISA*調査とTIMSS**調査の結果より—

講師 瀬沼花子氏(国立教育政策研究所)

2006年2月2日(木) 15時00分～17時00分

慶應義塾大学三田キャンパス 大学院棟311番教室

いま、日本の大人たちは、自国の子どもたちのあいだで「学力の低下」や「学力の格差拡大」が進んでいるのではないかと心配し、これまでの「学力政策」の功罪を問う議論を盛んに行っています。しかしながら、一方で、そうした議論のなかには非科学的な主張が混ざりこんで、子どもたちと教師たちにとっての日々の授業を混乱させていることも事実です。この公開研究会では、学齢期の人間の学習に関する2つの国際調査の結果分析を通じて、あくまでも冷静に、日本の学校教育の課題を考えたいと思います。

*PISA(Programme for International Student Assessment):

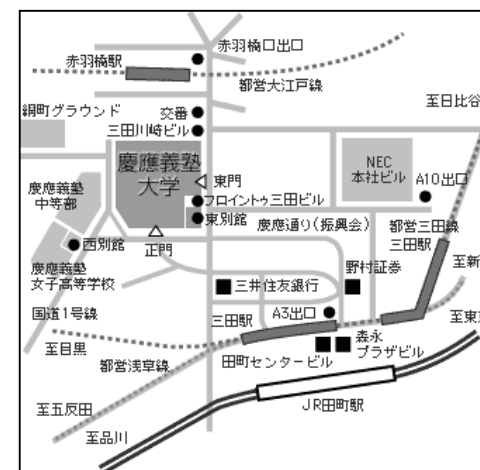
経済協力開発機構(OECD)が実施している「生徒の学習到達度調査」。

**TIMSS(Trends in International Mathematics and Science Study):

国際教育到達度評価学会(IEA)が実施している「国際数学・理科教育動向調査」。

<主催・問合せ>

慶應義塾大学教職課程センター TEL. 03-5427-1618



© Keio University

JR山手線・京浜東北線「田町駅」下車
都営地下鉄浅草線・三田線「三田駅」下車
都営地下鉄大江戸線「赤羽橋駅」下車
(いずれも徒歩7～8分)

参加無料